



二学期始業式(校長の話)より 抜粋

42日という夏休み、家での生活から、学校での生活が始まることに対して、気持ちの切り替えができていますか。

夏休みは、「あいさつ、ありがとう、あとしまつ」を活かして自分の生活をつくってほしいという願いをしたが、どうだったか。夏休みに取り組んだ絵や工作・自由研究などの作品展を楽しみにしている人が多いのではと思う。

7月の終わり、ある方から電話。横断歩道を渡った後、止まってくださった運転手へ丁寧にお礼をする児童を見かけた。「とても気持ちのよい光景だった、安全運転しよう、今日一日仕事をがんばろう」と思ったという嬉しい連絡。

水の事故・交通事故・熱中症などから命を守るという話をしていたが、大きな事故がなく、ほっとしている。

この夏、女子サッカー、男子バスケット、世界水泳、世界陸上など、世界レベルの競技や日本人選手の活躍をテレビや新聞で見ることができた。また、ソフトボールやレスリング等でも島原半島の選手の活躍を知った。スポーツの素晴らしさを改めて感じた。

すでに始まった二学期、実践してほしいことについて

一つ目、やはり「あいさつ」。自分から挨拶をする習慣がない人、小さい声の人がいる。教室では響きのある挨拶ができるようになっていく。まずは、家庭で、また登下校の時の地域の方へ気持ちよさを届けるようみんなの気持ちのよい声を広げてほしい。きっと、素敵なことにつながる。

二つ目。トイレのスリッパ、トイレトーパーは、一学期、残念ながら乱れていたり、落ちていたりしたことがあった。やはり、乱れているのを見ると揃える、きれいにしたくなる心を持った人もいます。気付いた人がスリッパを揃えたり、トイレトーパーを片付けたりしているのかと思う。後始末のことを考えると、家庭における玄関のくつ並べ、部屋の片付け、使った物の後始末、電気を消すなど、学校と家庭・地域の実践が大切だと考える。大切なことは、みんな、一人一人の行動である。

三つ目、家庭での過ごし方について。やってはいけないゲームを行っている人がいると聞く。その影響で人を傷つけ、嫌な思いをさせる言葉を使ったりする人もいるのではないかと。自分の成長にとってマイナスである。併せて学習面について。家庭学習、その中でも特に、宿題はもちろんであるが、宿題以外の自主学習をいかに行うか、自分で目標を決めて行うか、このことが学力を高める秘訣だと思う。

「自分の生活をつくる」ということは、「自分で考えて」、「計画を立てて行動に移す」ということ。つまり、よりよい生活にするためにどんな取り組みをすればよいか考えてほしい。そして、「自分で考えて」、「計画を立てて行動に移す」ということがいかに素晴らしいことか、自分の成長につながるのか、是非実感してほしい。深江小学校で取り組んでいることが、みんなにとって「よき習慣」となるよう、家庭や地域に発信できればと思う。

夏休みの生活など自分でつくった経験を、二学期からのみんなで行う楽しい学校生活につなげよう。ものごとに対して、正しい判断ができ、実践する二学期にしていこう。



☆ 高橋 優妃先生 が復帰されました ☆

高橋優妃先生が育児休暇を終え、2年1組担任として復帰されました。再会した子供たち、2年1組の子供たちも笑顔いっぱいでした。

ところで、2年生は、4Hクラブのみなさんの協力をいただき、スイカの栽培をしていました。周囲の除草作業や、夏の暑さを考えてビニールの開閉にも配慮していただきました。少し、ビニールの隙間があると、カラスがスイカをつつきに来て、残念な結果になった物もあったのですが、見事に成長したスイカができました。9日の登校日に2年生に渡す予定でしたが、登校日が中止になり、高橋先生自身が家庭訪問をして渡されました。味はいかがだったでしょうか。4Hクラブのみなさんに改めて感謝申し上げます。



南島原市家庭教育講演会 8月5日(土)より 出会いの人生から学んだこと ～子どもに寄り添える心を育てる～

南島原市教育委員会主催、南島原市PTA連合会共催による「家庭教育講演会」が開催されました。講師は、テレビ出演豊富な弁護士：菊池幸夫氏でした。手話通訳と要約筆記があり、視覚障がい者・聴覚障がい者がストレスなく講演を理解できるよう配慮されたバリアフリーの講演会でした。

部分的ではありますが、講演の主な内容をご紹介します。

- 自分の家庭環境から……距離を置いて見守ってもらったことで、自分なりに考えて行動できたのでは。
- 地域のバレーボールチームの監督を務めている。
 - ・自分のチームでは、「気を付け」をしない。「気を付け」という号令は、子供たちに自由にしゃべらせないようにするのは。
 - ・子供は思いをもって体育館へ来る。自分で考えて実現させる。
 - ・バレーの試合後、指導者は反省会をする。長い。
 - ・自分で考える機会を与える。週1回の練習であるため、もっとやりたいという意欲がある。
- 大学の講義をしていると、反応を全く示さない。ノートや教科書を開かない。自分で考えようとしなない。
 - ・学生は、問題と答えのセットを欲しがっている。
- 小学校教師は、工夫して自分で考える授業を仕組んでいる。
- 子供たちにどう接したらよいのか、可能性をどのように引き出したらよいのか考えていきたい。



(独り言)

共感できる部分もたくさんありました。また、これまでの自分の考え方と比べることにより、深く考えさせられる機会となりました。様々な講演会が開催されますが、自分を見つめ直す良き機会となることは間違いありません。是非、時間を作られ、第三者の話を聞かれてはいかがでしょうか。

8月21日(月)平和集会 より

歌「折り鶴」、3年生への千羽鶴の手渡し式、4年生による平和学習の発表、本和加さんによる朗読劇「8月9日の記憶」、各クラスの「平和の誓い発表」を行いました。

本和加さんの朗読劇の最後、①自分・他者の命を大切にする。②差別をしない、いじめをしない大切さ。それらのことは、命の尊さにつながる。③問題が起こったら話し合いで解決する。きっと気持ちが伝わる、分かり合える。という内容のメッセージをいただきました。【これらのことが、各学級の平和の誓いに込められていました。】

なぜ、平和集会を行うのか。それは、原爆の悲惨さを忘れないため。そして、二度と戦争や原爆が起こらないように願うため。人間は平和で幸せに暮らしたいと思っている。世界にはまだ戦争や紛争がある。核兵器や化学兵器などの恐ろしい武器もある。私たちは、そんな世界を変えていく力を持っている。私たちは、どうやって平和に貢献できると思うか？ まずは自分の身近なところから始めることが大切。友だちや家族と仲良くすること、違う意見や考え方を持つ人を尊重すること、困っている人や弱い立場の人を助けること、自分の感情や思いを素直に伝えること、そして、自分の夢や目標を持って努力すること。小さなことかもしれないが、それぞれが積み重なって大きな力になる。私たちは一人一人が平和をつくる人である。私たちは一人一人が平和を伝えないといけない。8月9日、この日を忘れずに記憶し続け、平和について考えていこう。(後半:校長の話から 抜粋)



PTA除草作業 8月27日(日) ご協力ありがとうございました

残暑厳しい中、多くの保護者・児童の協力をいただき、3年ぶりの除草作業を行いました。

時折の雨や猛暑により、雑草等の成長には驚きます。清掃時間、職員・児童による除草だけでは、作業が追いつかず、みなさんの力をお借りせざるを得ません。運動場等の草取りに加え、樹木等の枝の伐採・剪定、溝の泥上げなど、ご苦勞をおかけしました。改めて感謝申し上げます。翌日、東部リレーセンターへ搬入したところ、何と410kgあったそうです。おかげさまで、子供たちも気持ちよく2学期を迎えることができると思います。

